相川
あいかわらばん
瓦版
第19号
2016年2月25日発行
発行：佐渡市世界遺産推進課
電話 0259-63-5136
FAX 0259-63-6130
編集：佐渡市世界遺産推進課
新潟県教育庁文化行政課
世界遺産登録推進室

もうすぐ ひなまつり

もうすぐ3月、今年も「佐渡國相川ひなまつり」（3月1日～3月21日）が開催されます。

さて、世界遺産推進課のイベントとして、これまでたくさんの方にご参加いただいてきた「あいかわ発見スタンプラリー」ですが、今年も開催します！例年どおり、「佐渡國相川ひなまつり」の開催中、相川地区の各所にスタンプを設置します。スタンプラリー専用のパンフレットにスタンプを5種類集めた方には、景品をお渡しします。パンフレットや景品はあいかわぽんぽこホール内の「ひなまつり案内所」（相川羽田町）にあります。

おかげさまで、スタンプラリーも今年で3回目となります。大勢の方のご参加をお待ちしています！

相川 昔のひなまつり

相川地区の昔のひなまつりは、今とは少し違い、地域ごとに面白い習慣があったたようです。『佐渡相川の歴史　資料集八　相川の民俗Ⅰ』（昭和61年、相川町）から、そのいくつかをご紹介します。

例えば、橘では昔、「雛さんに山を見せる」と言って、雛人形を持って山を歩いたそうです。関では、古い雛や欠けた雛は、桟俵（米俵の両端にあてる、わらで編んだ円形の蓋）に雛人形を乗せて海に流したそうです。また、戸中では、「雛見しやれ（見せてくれ）」と言って、家々を歩いたそうです。

相川地区では、他の地域でも、子供たちが各家庭の雛飾りを見て歩いたという話を聞きます。ひなまつりは町をあげての楽しい行事だったようです。

相川の今昔

佐渡奉行がみた相川の風景

慶長8（1603）年、相川に奉行所が置かれて以降、幕末までに102名が佐渡代官あるいは佐渡奉行に任命されました。今回は、その一人、川路聖謨（としあきら）が綴った佐渡滞在日記『島根のすさみ』から、天保11（1840）年8月22日の日記を紹介します。

「朝雨にて、西北風強し。波の音、殊に甚し。百千の滝のうちにあるが如し。午後より雨止みぬ。然るに、陣屋下の町をみるに、白雨のにわかに来るが如し。よくみれば、荒波のくだけて、きりの如くに成りしを、風の吹き散らせしが雨の如くにみゆる也。磯辺の鳥、吹飛ばされて、おもしろき姿也。」

その日は、朝から風が強く、滝のように雨が降っていました。午後になると雨は止み、台地上の奉行所から下町を眺めると、そこにはまだ雨が降っているように見えたそうです。よく見ると、それは、打ち付ける荒波が風に吹かれて霧状になったもので、鳥も風に吹き飛ばされるほどの強風だったようです。

江戸時代の佐渡奉行が見た風景も、今の私たちが目にする風景と変わりなかったようです。

出典：『島根のすさみ―佐渡奉行在勤日記』（昭和48年、平凡社）

昭和の頃の相川（相川下戸町・相川羽田村）

今月のにゃんじー

がんばれ受験生！

受験生の皆さん、あとそうひと息です。
にゃんじーも応援しています！

第20号の予告

◆町並み見学報告
ほか

次回3月25日
刊行予定

あいかわらばんのデザイン:佐渡市世界遺産推進課　キャラクターデザイン:aki*kana haraguro design studio　印刷:㈱第一印刷所

報告 歴史を活かした各地のまちづくり

昨年11月、歴史を活かしたまちづくりを学ぶため、相川第2分団の代表者の皆さんとともに、まちづくりの活動が盛んな3地区を訪ねました。現地を見学するとともに、実際に活動されている方々のお話しを伺ってきましたので、その模様を報告します。

今号では、見学地のひとつである「東京谷中」の、歴史ある町並みを活かした活動を紹介します。

群馬県桐生市本町

静岡県静岡市清水区蒲原

見学先

①東京谷中 ～若者が集う、寺と坂のまち～
②静岡蒲原 ～女性ががんばる東海道の宿場町～
③群馬桐生 ～大久保長安が町立てした織物のまち～

東京谷中（やなか） ～若者が集う、寺と坂のまち～

江戸時代、江戸城の鬼門にあたる場所に寛永寺が建立されました。谷中は、寛永寺の創建にともない、門前町として発展し、今も70を超える寺院が残ります。台地に挟まれた谷間にあるので坂道も多く、寺と坂が風情ある町並みをつくっています。

また、震災や戦災による大きな被害を免れたので昔ながらの町家が多く残り、近年では、若者向けの店として活用されている町家も増えています。

見どころ

積極的な活動
- 活発な地元商店街
- NPOと地域が連携、古い建物をいかす活動がさかん

相川との共通点
江戸から平成まで、色々な時代の建物。
歴史の積み重なりを感じる町並み。

谷中では、時代が進むにつれて昔ながらの商店や建物が減少するなか、まちづくりの機運が高まっていったそうです。現在は、谷中の魅力を守るために、NPOや地域が連携しながら取組みを進めています。

古い建物を活用する活動も盛んです。再利用されている建物は、修理は必要最低限、手を入れすぎず、昔からある建物の古さが活かされていました。懐かしいにおいのする商店街や建物に若者や外国人観光客が集っていました。

ゆるやかに変化してきた自然な姿に歴史を感じます。

見学報告

昔ながらの商店が元気

地元客と観光客が混在する商店街

江戸時代の銭湯をアートギャラリーに

昭和13年築の3軒の家を複合施設に

店先にさりげなく置かれた観光マップ

大正時代の町家が若者に人気の喫茶店に

谷中の最寄駅は、上野駅から2駅目の「日暮里駅」にゃ。
上野動物園からも歩いていけるところにあるにゃ。

澪子さんおすすめ歴史資料のコーナー

澪子：にゃんじーも相川にはだいぶ詳しくなったと思うけれど、江戸時代の相川のことをもっとよく知りたいと思わない？佐渡には、『佐渡年代記』『佐渡国略記』『佐渡相川志』『佐渡四民風俗』など、江戸時代の佐渡の様子を記録した歴史書がたくさん残されているの。なかでも『佐渡相川志』には、相川の町々の成り立ち、お寺や神社のほか、色々な商売・職業を営んでいた人たち、医師や文人など学芸の達人についても記述されているのよ。

にゃんじー：すごいにゃ。

澪子：今紹介した歴史書の原本は、昔の文体や文字で書かれているのだけれど、明治時代以後、多くの人が努力してそれを読みとって活字の本にしてくれたから、誰でも読めるようになったの。そうは言っても、昔の読み物は難しくて意味がよく分からないという人には、『佐渡相川郷土史事典』をおすすめしたいわ。色々な歴史書や資料を元に、相川に関する事柄が五十音順に分かりやすく記述されているの。この歴史書や事典は図書館に揃っているから、ぜひ、一度手に取って見てね。

にゃんじー：澪子さん、また色々教えてにゃ。

『佐渡相川郷土史事典』（平成14年,相川町）

澪子さんとは…世界遺産推進課の指導員さん。相川の文献資料に詳しい。